

【口腔ケアの取り組み】

あおとり日野の洗面所には各個人の歯ブラシとコップが置けるように棚を設置しています。

利用者の中には置き方にこだわりがある方もおり、歯ブラシのヘッドをコップ内に入れて棚に置いてしまう方もいます。これはブラシ部分が乾かないので利用者が降所された後に職員が置き直します。その際、ブラシ部分が使えない状態になっていないか、コップは汚れていないかチェックをしています。交換が必要と判断した場合は親御さんやグループホームに交換の要請をします。



(歯みがきセット用個人棚)

昼食後の歯みがきでは、視覚的能力が優位な方は「歯みがき絵カード」を利用し、まず自分でみがきます。この絵カードは東京都保健所で配布しているものを活用しています。自分でみがいた後は職員が点検をします。



(昼食後はみんなで歯みがき)



(歯みがき絵カード)



(職員による点検も毎日行います)

この毎日の歯みがきの関わりの中で、重大な口腔内病変が見つかった利用者もいました。

また、配慮として、集団が苦手な方は個別対応で歯みがき支援をしています。

歯みがき支援を行っている中でわかってきたことですが、知的障害がある方の口腔ケアの難しさは、以下の4点が挙げられると思います。

① 形だけになってしまう

口腔内が鈍麻で、歯を歯ブラシでなぞっているだけになりがちです。

② 特定の場所だけみがいてしまう

口腔内が過敏で、歯ブラシが特定の場所にあたるのが不快。

③ 模倣が難しい

歯ブラシの持ち方、向きがわからない、絵カードを利用したり、職員が目の前でやって見せたりしても模倣が難しい。

④ 歯みがきのイメージがとても悪い

幼い時に受けた「痛い」や「口の中に物を入れられる」と言った悪いイメージが強く残っている。

これらのことを踏まえて、あおとり日野の職員が心がけていることは、

① 決して無理をしないでスモールステップで進める

嫌になってしまったらそもそもケアができません。例えば、お遊びを入れながらもイメージ良くすすめます。

② 気づいたことがあれば親御さんやグループホームに伝える

歯科通院など専門家につなぐことができます。

③ できないことは気持ちよくお手伝いする

障害があるがゆえにご本人ができないことは求めません。清潔を保ちむし歯にしないことが目的であり、利用者を陶冶することが目的ではありません。

【終わりに】

歯みがきを習慣化するにはとても時間がかかります。これら3点を軸に毎日コツコツ続けることが大事であると考えます。

これからも関心を持ってしっかり取り組んでいきたいと思います。

(記事作成：東京都南多摩保健所)